

1. テーマ設定・絞込み

- a. ホロコーストに関するテーマにしようと考えていますが、しぼり方が難しい¹。
- b. レポートの題を決め、中身を考えなければならない時期なので、それに合わせて映画を見たいと思う²。
- c. 実家の近くにあるホロコースト記念館にも一度足を運んでみよう³。
- d. 映画「帰ってきたヒトラー」予告編を見てかなり興味が出てきたので観に行こう。

2. ヨーロッパ社会の多様性と大きな傾向（福祉国家・福祉制度の充実過程）

- a. ブルガリアの離婚率は「高すぎる」⁴
- b. 離婚率などから、その時の情勢が分かってくるような分析法もあるのだと思いました⁵。
- c. スウェーデンの離婚率の高さと変化・・・「気になった」、「驚き」、「なぜ」⁶
- d. スウェーデンは平和なイメージで、そこからなんとなくだが離婚率が低いと思っていたが、実際にはそれと真逆で驚いた。なるほど、個人主義、福祉制度が整っていること、そういう理由であまり離婚に対してマイナスな感覚を持たないという価値観がとても面白い。
- e. 女性の自立が進むと離婚率が上がる傾向にある⁷。

1 一番疑問に思っていることは何か。まずそれを調べてみて、その過程で次々と疑問がわき出てくると思うので、その「なぜ」をいろいろのキーワードを図書館文書検索で入れてみて、あつた文献の中から面白そうなのを捜し、解きほぐしていく、といった作業が必要ですね。

2 実にさまざまの映像資料や映画がありますので、テーマ選択にはいい刺激になるでしょう。

3 まさに、百聞は一見にしかず。驚き、疑問を持つ展示物に出会うと、テーマ設定・絞込みに役立ちます。

4 調べてみる必要がありますね。一般に、社会主義だった諸国は、生活保障が比較的充実していること、女性の就労率の高さなどとの関連で、離婚率が高くなる傾向にあります。g あ、個別の国に関しては、どのような事情があるのか、法的制度的なさまざまな要因を調べてみる必要があります。期末論文の一つのいいテーマになるかと思います。文献検索を行ってみてください。

5 離婚率がなぜ変化するのか、結婚や家族に関する価値観はどのように変化するのか、大変重要な社会認識のテーマです。

古典的夫婦家族、ひとり親家族、法的に結婚形態をとらない実質的パートナー関係のあり方、非婚選択の価値観、その他、ケルブレ著『ヨーロッパ社会史』第8章にも、多様な家族・結婚のタイプがあり、多様化が進んできたヨーロッパ社会に関して、説明がありますので、参考にしてください。

6 ぜひ、調査してみてください。ケルブレさんの統計を紹介し、ヨーロッパ諸国の違いと傾向とを概観したわけで、その違いや変化の原因をさまざまな角度・データから調べると、また、日本などと比較してみると、ヨーロッパ社会の認識が深まります。研究報告を期待します。

7 「自立」の中身ですね。また、「自立」を可能にする経済的社会的条件、法的制度的条件などを検討する必要があります。ヨーロッパも日本も、この女性の「自立」を促進する傾

3. 歴史遺跡等の「聖地化」とこれに対する警告・警鐘のシンボル化
 - a. ヒトラー生家・・・ネオナチの聖地化の危険⁸
 - b. ベルリンのヨーロッパ・ユダヤ人虐殺記念碑・・・「過去のことを忘れたにためのモニュメント」だという認識だったが、「ネオナチの聖地になることを防ぐ」目的もあったかと驚き⁹。
 - c. ドイツ国内もしくはヨーロッパ内で現在どれほどネオナチの動き？が見られているのか、本当にあるのか¹⁰、
4. 人種主義・民族主義
 - a. 「強い危機感と恐怖」¹¹
 - b. 「ユダヤ人＝お金持ち、賢い」、「ユダヤ人から学べ」の書物を見かけるが・・・¹²
5. 難民問題—政治的難民と経済的難民の区別の対応の仕方—¹³
 - a. 「難民はあくまで難民であり、その国にいさせてもらっている立場なのを忘れないでほしい、と考えているのは非人道的？¹⁴
6. 政治と宗教
 - a. ヒトラーがドイツを支配していた時、ドイツ内の宗教の役割は？ヒトラーはどこまで宗教信者であったのか、という点が気になった¹⁵。

向・諸条件はあります。しかし、他方では、そもそも非正規労働などがこれほど増えると、非婚化が深刻という現実もあります。

⁸ この危険性をどのように考えればいいのか、これも探究に値するテーマです。

⁹ 歴史をどのように記憶するか、これをめぐって、激しい対抗的見方がある、ということです。どの見方が、どのような意味で真実か、まさに歴史研究が必要です。

¹⁰ これまた、非常に重要で、調べてみる必要があります。図書館文献検索（図書と新聞雑誌等）で、いろいろ関連キーワードを入れて、調査してみてください。

ネオナチとナショナリズムには、共通項があります。区別（違っているところ）と共通項を仕分けしてみても、いい研究テーマです。

¹¹ 現在の人種主義・民族主義の運動と言説を調べてみて、それがどのような経緯で発生し、どのように広がり、さらにまた縮小するのか、何か一つの民族運動に的を絞って調べてみるのも、いいテーマです。

¹² まさに、お金持ちや賢さを民族の特質としてひとまとめに見る見方ですね。物事の民族主義的な見方ということになります。「ユダヤ人が諸悪の根源だ」という反ユダヤ主義も、「諸悪」をひとまとめにユダヤ人のせいにする民族主義の一形態です。表裏の関係になります。反ユダヤ主義とパレスチナ問題に関連して、次の文献も興味深いものです。ジェフリー・ハーフ著『[ナチのプロパガンダとアラブ世界](#)』（岩波書店、2013）

¹³ これがまさに現在のヨーロッパで大変な問題となっている。新聞・雑誌等を調べ、過去の文献門調べ、整理してみてください。いい期末論文テーマです。講義資料として配布する記事は、「ドイツのための選択」という右翼・ナショナリズム政党の女性党首の言説です。これを検討してみるの、そして、他の諸政党の見解などと比較してみるのはいいいテーマとなります。

¹⁴ これも、重要な研究テーマです。まさに、この発想も、上記、「ドイツのための選択」などに見られる発想です。難民をどうとらえるか、テーマとして選び、いろいろの考えを比較検討してみる必要があります。

¹⁵ いい研究テーマです。